

耐候性試験<wetherrability test>

屋外で使用する材料の評価のため、材料を光、熱、雨などの屋外条件下で長時間暴露して材料の変化を調る試験である。試験法には屋外暴露試験のほかに、評価期間の短縮と暴露条件のばらつきを防ぐため照射強度をあげ、光の点滅、散水するなどした人工促進試験がある。

ダイスエル<die swelling>

押し出し成型において、ダイから押し出された成型品の口径がダイ開口部の寸法よりも増加することをいう。成型品の寸法精度に重要な性質である。

タッピング<tapping>

ネジタップを使って行う雌ネジきり作業。金型や機械部品の取り付けなどによく利用される。

耐アーク性<arc resistance>

絶縁体を通して連続的に電圧をかけると発光放電が発生し、これをアーク又は電弧という。一般にプラスチックの表面でアークを発生させると有機物はアークの高温により分解し、やがて炭化する。この分解あるいは炭化現象に対する抵抗性を耐アーク性という。

耐クリープ性<creep resistance>

材料に弾性限界内の応力を長時間加えると変形することをクリープといい、このおこりにくさを耐クリープ性といい、エンブラではポリアセタール、ポリカーボネート、ポリスルホンが優れている。

ダイキャスト<die cast>

溶融した金属を高圧で注入して成形を行う製造法をダイキャストイングといい、このような方法で成形されたものをダイキャスト製品という。プラスチックでも射出成形で同様の装置や金型が用いられ、生産速度が高く寸法精度もよい。

耐トラッキング性<tracking resistance>

絶縁物の表面にちりや電解質などの汚染物質が付着した状態で、比較的低電圧におけるトラッキング（導電路の形成）を測定する方法、代表的な試験法は JIS C 2134(IEC 60112)で規定されている。

チップ化

電気、電子部品関係で用いられる用語で、抵抗や、コンデンサー、コイル等の形状を非常に小さくして、プリント基盤に自動実装出来るようにすること。

テーパ<taper>

成形用金型では成形品の取り出しを容易にするために金型につける抜き勾配を言う。

デュロメータ硬さ<durometer hardness>

プラスチックの硬さを表す尺度で、針入り型硬度の一種。スプリング荷重方式の圧子を材料の表面に押し付けて、圧子のスプリングと針入り抵抗が平衡となった値で示す。ゴムや軟質 PVC などの硬度測定に用い、得られた値は指先の感触とよく対応する。

電取法<Electrical Appliance and Material Control Law>

電気用品取締法の略称で、日本の電気製品の安全性を規定する法律であったが 2001 年 4 月発効した電気用品安全法に置換わった。

電気用品部品・材料認証協議会<CMJ = Certificate Management Council for Electorical & Electronic Components & Material of Japan>

1990 年 8 月に電気製品の部品と材料の第三者認証が発足し、更に電安法に対する対応並びにこの登録制度を国内外で効率よく進めるために S マーク制度、期間内登録制度のあわせ展開されている。

電気用品安全法（略称：電安法）<Electrical Appliance and Material Safety Law>

電取法が 1999 年 8 月に改定且つ改称されて公布され、2001 年 4 月に施行された。製品の多様化と国際的な整合性を図るため自、己確認と相互認証、及び罰則の強化をベースに構成されている。

トライボロジー<tribology>

摩擦、摩耗、潤滑、焼き付きなど、金属の表面で起こる摩擦現象のメカニズムを扱う学問分野。ちなみに tribo - は「摩擦」を表す言葉。

動摩擦抵抗(動摩擦係数)<coefficient of kinetic friction>

物体が他の物体と接触して運動するときに・接触面に現れる運動抵抗をいう。滑り摩擦と転がり摩擦とがある。一般に動摩擦係数は静摩擦係数より小さい。

ドライブレンド<dry blend>

粉末ないし粒状のポリマーを溶融させずに各種添加物を単に混合して得られる成形材料、又はその作り方を言う。